

取扱説明書

サン電子の商品を正しくご使用していただくために取扱説明書をよくお読みください。
この取扱説明書は、いつでもみることができる場所に保管してください。

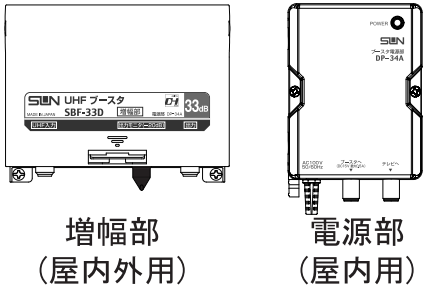
デジタル放送専用ホーム用電源分離型ブースタ

UHFブースタ

地上デジタル

33dB型
SBF-33D

41dB型
SBF-41D

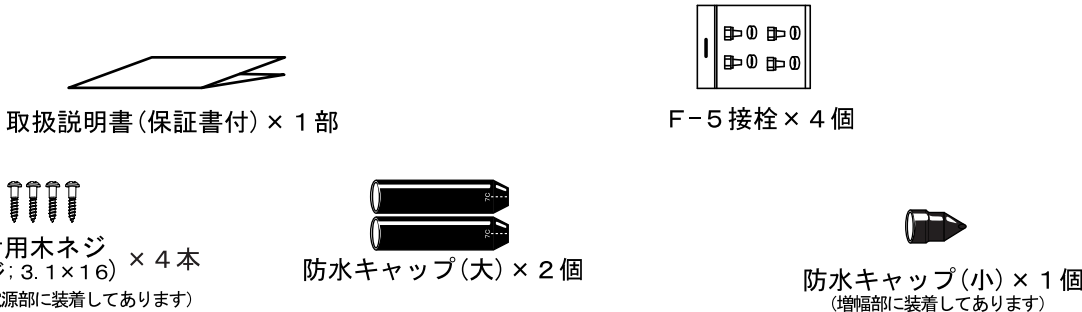


※ FM・VHF・BS・CS・CATVには使用できません。

特長

- 妨害信号の飛び込みを防ぐ高シールドタイプの電源分離型ブースタです。
- UHFプリアンプ用電源スイッチを搭載し、送電状態をパイロットランプで確認できます。(当社指定のプリアンプをご使用下さい)
- 従来のマスト取付に加え、取付金具等の水平部分(アーム部)にも取り付け可能です。(増幅部)
- 出力モニタ(測定用)端子を搭載し、10dBの入力アッテネータと0～-10dBの利得調整機能を備えているので、レベル調整が容易に行えます。
- 防雨構造を採用し、屋外でも設置できます。(増幅部)

付属品



安全上のご注意

絵表示について：取扱説明書、および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読み下さい

警告

注意

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。

㊟記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。)が描かれています。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから(販売店に)修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて(販売店に)ご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、異物が機器の内部に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて(販売店に)ご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。(特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。)
- 万一、この機器を落としたり、ケース、カバー等を破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて(販売店に)ご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- この機器の上に水など(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品)の入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- 風呂場で使用したり、機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
- この機器のケースを取り外したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は(販売店に)ご依頼ください。
- この機器の開口部から内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)(販売店に)交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源コード・接続コードには絶対に触れないでください。感電の原因となります。

注意

- 電源プラグやACアウトレットの金属部分や金属の取り付け面に、ほこりが付かないようにしてください。ほこりが付いている場合は電源プラグを抜き、ほこりを取り除いてください。ほこりが付いたまま使用すると、電源プラグの絶縁低下により火災の原因となります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないで(取り付けないで)ください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。(必ず電源プラグを持って抜いてください。)
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コード(アンテナ線、機器間の接続コードなど)をはずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- テレビ受信工事には技術と経験が必要ですから販売店にご相談ください。

注意 ブースタは正しくお使いください。

ブースタを正しく取り付けないと自分の家や近所のテレビの写りが悪くなることがあります。

1. 入力端子・出力端子の配線は、取扱説明書にしたがい確実に行ってください。

2. 入力側と出力側のケーブルは、束ねたりブースタに巻きつけないでください。

3. アンテナマストに取り付ける場合は、UHFアンテナとブースタを1m以上離してください。

4. 本品を設置してもデジタル放送受信機器に表示される「アンテナレベル」や「受信レベル」の数値(指標)が変わらない場合や下がる場合がありますが、本品の不具合ではありません。「アンテナレベル」や「受信レベル」は、アンテナの方向調整を目的とした機能で、受信C/Nの換算値を表しており、電波の強さを表すものではありません。

5. 増幅部のフタをしっかりと閉めてください。
6. 増幅部を屋外に取り付ける場合は入力端子と出力端子が必ず下向きになる様に取り付け防水キャップを取り付けてください。

7. 電波が弱く、アンテナとテレビを短い距離で直接接続した状態で良好に受信できない場合は本器をご使用頂いても効果がありません。
-

目次

・各部の名称	1
・使用例	2
・取付方法	3
・同軸ケーブルの加工方法	4
・端子と同軸ケーブルの接続方法	5
・トラブルシューティング	6
・規格表	7

1-1 各部の名称 増幅部(SBF-33D、SBF-41D)

増幅部(屋内外用)

UHFプリアンプ用電源

UHF帯域入力ATT

UHF帯域利得調整

パイロットランプ

点灯色の状態

UHF入力端子

出力モニタ端子(-20dB)

出力端子(電源部へ)

注意

- ・スイッチが長期間未使用の場合は切換操作を数回行いスイッチ接点部のクリーニングをしてから操作してください。
- ・スイッチは軽く操作してください。強く操作すると破損する恐れがあります。
- ・利得調整用ボリュームは小形のマイナスインドライバーで軽く回してください。強く回すと破損する恐れがあります。

1-2 各部の名称 電源部(DP-34A)

電源部(屋内用)

増幅部と必ずセットでお使いください。

パワーランプ

電源コード

入力端子(ブースタへ)

出力端子(テレビへ)

AC100Vを接続し電源が端子より重畳されると緑色に点灯します。

AC100Vを接続しても、点滅を繰り返したり、緑色に点灯しない場合は、「6. トラブルシューティングQ2」を参照してください。

ブースタへ

テレビへ

注意

- ・電源部にはスイッチがありません。AC100Vコンセントを接続すると、ブースタ端子から電流が流れますので、配線終了後、電源を差し込んでください。
- ・電源部は屋内専用ですが、押入れ、天井裏等の見えない場所や浴室、流し近く等の直接水のかかる所や湿気の多い場所には危険ですので設置しないでください。

SUN

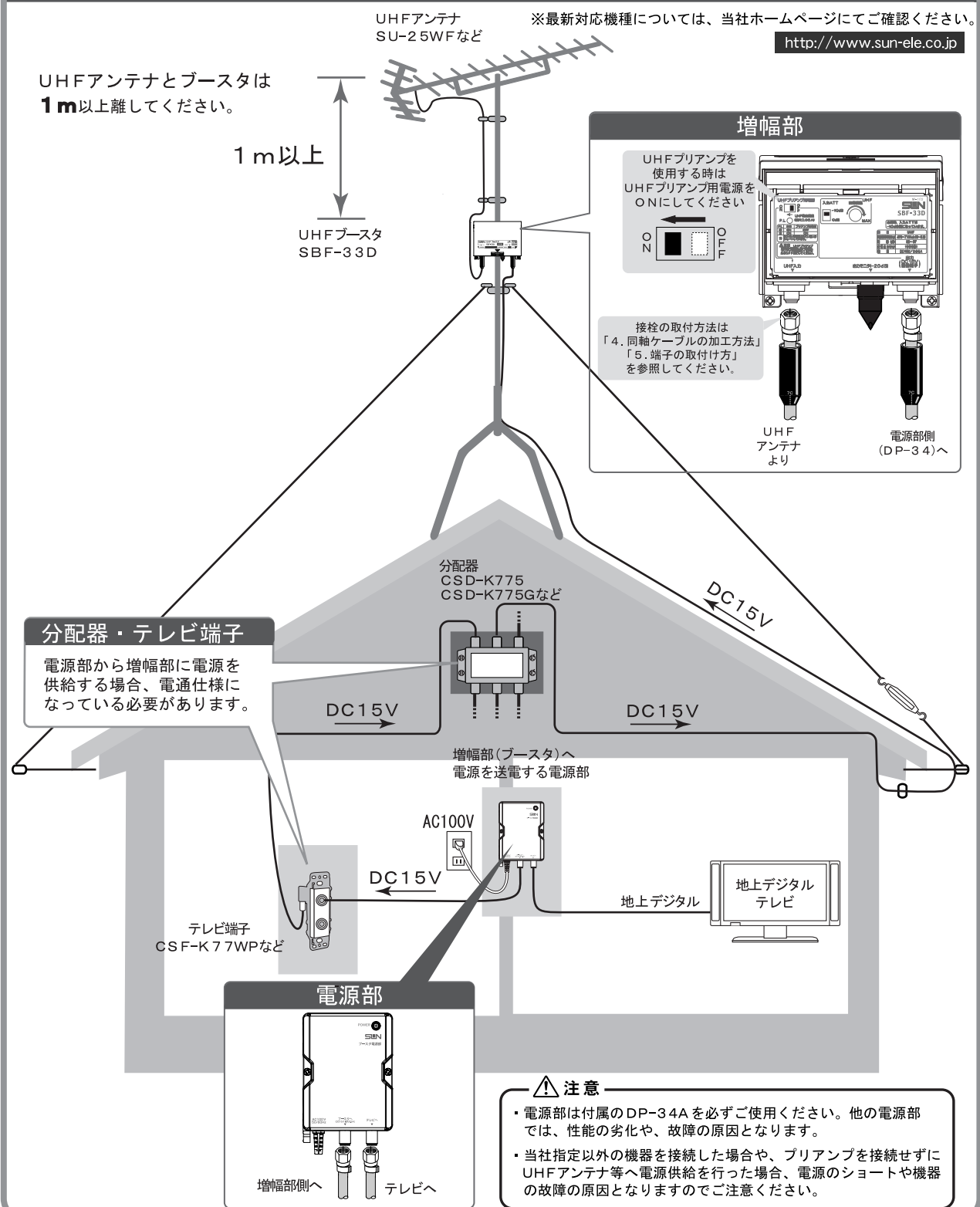
保証書

サン電子商品をお買い上げいただきありがとうございます。本商品の品質に關し、まして裏面無料修理規定の通り保証いたします。本保証書の再発行はいたしませんのでお手に大切に保管してください。

サン電子株式会社
本社 東京都新宿区西新宿4-3-12
TEL 03 (3374) 0081 (代)
埼玉事業所 埼玉県玉野市美里町古部667-2
TEL 0495 (76) 3681 (代)
営業所 東京・大阪・名古屋・福岡・広島・埼玉・横浜・千葉・仙台・仙台・仙南・神戸・小山・静岡

商 品 名		SBF-33D・SBF-41D	
お 客 様	ご 住 所	〒	
	ご 芳 名		
お買い上げ	年	月	日
保 証 期 間	お買い上げ日より1年間 年 月 日迄		
販 売 店			
店 名			
住 所			
電 話	()		

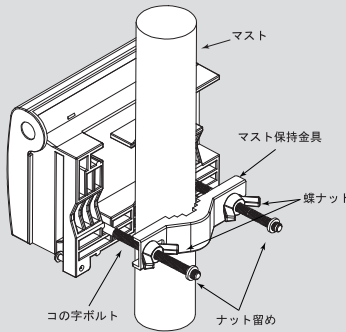
2 使用例



3-1 取付方法（増幅部）

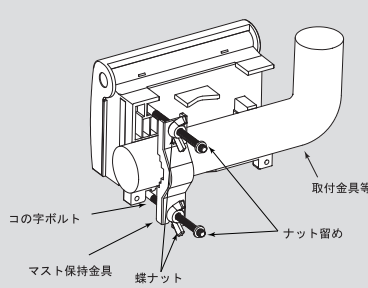
マスト(垂直部)

- コの字ボルトを垂直に立て、マストを本体とマスト保持金具で挟み、蝶ナットでしっかり締め付けてください。マストの適合径はφ16～φ48.6です。



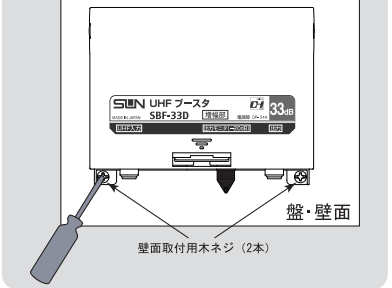
取付金具(水平部)

- コの字ボルトを付け換えることで取付金具等の水平部分(アーム部)に取り付けが可能です。下記のSTEPに従ってコの字ボルトを付換えて下さい。コの字ボルトを垂直に立て、取付部を本体とマスト保持金具で挟み、蝶ナットでしっかり締め付けてください。適合径はφ16～φ48.6です。



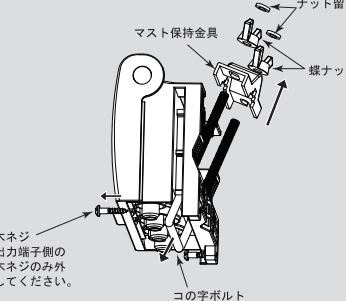
壁・壁面

- ドライバーを使用し、本体に取り付けてある「壁面取付用木ネジ」で固定してください。



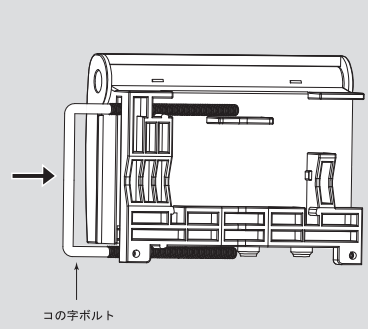
STEP 1

- 下図のように本体から各部品を取り外してください。取り外した部品は失くさないように気を付けてください。



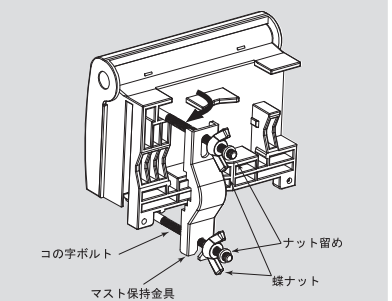
STEP 2

- 取り外したコの字ボルトを下図のように本体側面から奥に挿入してください。



STEP 3

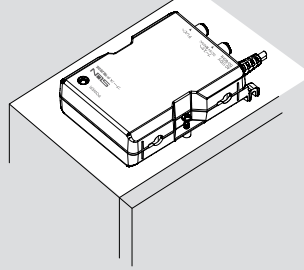
- 下図のようにコの字ボルトを垂直に立てマスト保持金具、蝶ナット、ナット留めの順に取り付けてください。



3-2 取付方法（電源部）

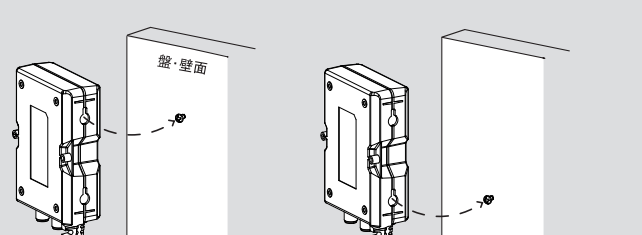
据置きイメージ

- パワーランプを上側にして、テレビラック等の上に横置きにしてください。



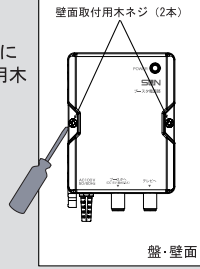
壁・壁面イメージ②

- 本体に取り付けてある「壁面取付用木ネジ」を2本ともはずしてください。
- ネジ1本を使用し、ドライバー等で板壁面にねじ込んでください。この時にネジの頭と壁の間は2mm～3mmあけてください。
- 電源部のどちらか一方のダルマ穴に引掛けてください。



壁・壁面イメージ①

- ドライバーを使用し、本体に取り付けてある「壁面取付用木ネジ」で固定してください。



●U字穴にてもう1本の木ネジで固定してください。

4 同軸ケーブルの加工方法

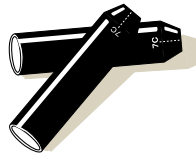
F-5接栓は正しく取り付けないと受信不良などの原因となります。

注意

ベンチ・ニッパー等の使用の際には十分ご注意ください。また、芯線が指等に突き刺さらないようご注意ください。

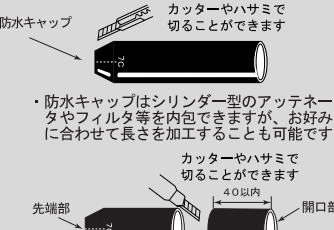
ご注意

- 7C同軸ケーブルを使用の際は別途ピン付コネクタをご使用ください。
- F形接栓は使用同軸ケーブルにあつたものをご使用ください。付属品としてF-5接栓が入っています。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの芯線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。

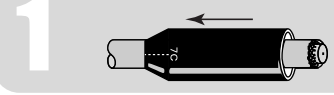


防水キャップの準備

- 5C以下の同軸ケーブルを使用する場合はこのままお使いください。
- 7Cの同軸ケーブルを使用する場合はハサミまたはカッター等を用い、点線に沿って切り込みを入れてからお使いください。



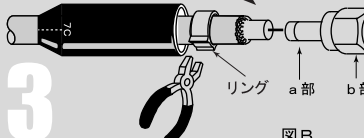
1. 同軸ケーブルを加工する前に防水キャップ(穴)を矢印の方向に同軸ケーブルに通します。※5C以下のケーブルの場合は接栓を取り付けた後からでも通すことができます。



2. 同軸ケーブルを図Aのように加工し、編組を折り返します。



3. リングを同軸ケーブルに通し、F形接栓のa部をアルミ箔と編組の間に挿し込み回転させながら、b部が、同軸ケーブルの外被に当たるまで押し込みます。さらに、同軸ケーブルが抜き取れないようにリングのツメ部を図Bのようにベンチ等ではさみ込み締付けます。



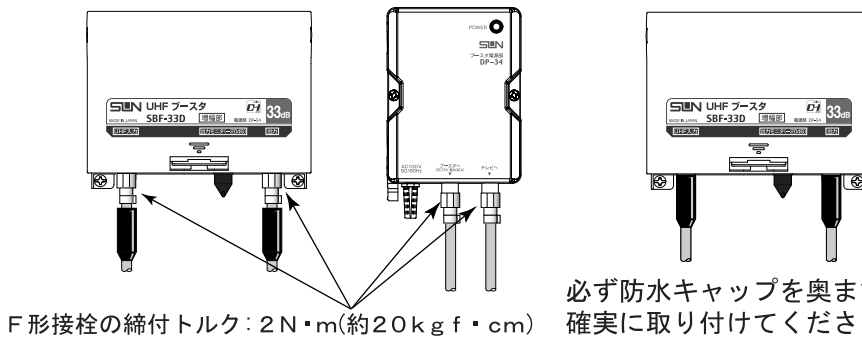
4. 最後に芯線をニッパー等で切断します。



5 端子と同軸ケーブルの接続方法

※ケーブルの加工及び防水キャップの加工は「4 同軸ケーブルの加工方法」を参照してください。

1. 加工した同軸ケーブルは増幅部及び電源部の各端子に接続してください。
2. 防水キャップを押し上げてケースに被せてください。使用しない端子にも必ず防水キャップを取り付けてください。
3. 作業後は必ずフタが閉まっていることを確認してください。



F形接栓の締付トルク: 2N・m(約20kgf・cm)

必ず防水キャップを奥まで確実に取り付けてください。

6 トラブルシューティング

増幅部のパイロットランプが点灯しない。
(電源部のパワーランプは点灯している)

配線・接続の誤りや、コネクタの加工不良が無いか確認をしてください。
増幅部と電源部の間に分配器等が接続されている場合は電流通過端子へ接続されている事を確認してください。

電源部のパワーランプが点滅を繰り返したり、緑色に点灯しない。

配線・接続の誤りや、コネクタの加工不良(ショート)が無いか確認をしてください。
増幅部とUHFプリアンプの間など電源が通電されている経路でショートしていたり、過電流になると電源部の保護回路が働きパワーランプが消灯します。UHFプリアンプを接続せずにUHFプリアンプ用電源をONにした場合もショートになる恐れがありますのでご注意ください。

デジタル放送が受信できない、モザイク状のノイズが発生する。

アンテナからの入力レベルが「高い」場合
➤ 増幅部の入力アッテネータスイッチや利得調整機能を使用し、利得を下げてください。

アンテナからの入力レベルが「低い」場合
➤ 増幅部の入力アッテネータスイッチや利得調整機能を使用し、レベル調整をしてください。画面に改善がない場合は各アンテナの向き・高さ・位置を調整してください。

外部からの妨害電波
➤ 妨害電波が原因の場合は、本器では改善できません。障害を避けるようアンテナの向き・高さ・位置を調整してください。

7 規格表

増幅部

項目	UHFブースタ	
	SBF-33D	SBF-41D
周波数帯域(MHz)	470～710 (UHFch 13～52)	
利得 (dB)	32～37	38～43
適正入力レベル (dBμ) ※1	40～68 (※2 88)	40～62 (※2 82)
定格出力レベル (dBμ)	105 (9波)	
利得調整範囲 (dB)	0～10以上 (連続可変)	
入力 A T T (dB)	0、-10 (切換式)	
雑音指数 (dB)	1.5 以下	
入力インピーダンス(Ω)	75 (F形)	
出力インピーダンス(Ω)	75 (F形)	
V S W R	3.0 以下	
出力モニター端子 (dB)	-20	
電源電圧・電流 / 運用消費電力	本体のみ: DC15V 0.06A / 1.4W UHFプリアンプ0.05A送電時: DC15V 0.11A / 2.4W	
使用温度範囲 (°C)	-20～+50	
寸法(mm)	92 (H)×117 (W)×52 (D)	
質量 (g)	280	

電源部

項目	ブースタ用電源
型名	DP-34A
周波数帯域(MHz)	10～770
挿入損失 (dB)	1.0 以下
入力インピーダンス(Ω)	75 (F形) DC重量端子
出力インピーダンス(Ω)	75 (F形)
V S W R	2.5 以下
電源電圧	AC100V (50/60Hz)
定格消費電力	10W
出力電圧・電流	DC15V 最大0.5A
使用温度範囲 (°C)	-10～+40
寸法(mm)	101 (H)×77 (W)×32 (D) (F座は除く)
質量 (g)	210

※1: 適正入力レベルの範囲内であっても入力した電波の品質によっては映らない場合もあります。
※2: 入力 A T T (-10 dB) 及び利得調整 (-10 dB) を併用時の値

■この商品は今後改良・性能向上のため、予告なく形状及び特性を変更することがあります。



サン電子株式会社

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-3-12
TEL.03(3374)0081 (代) FAX.03(3376)8801
埼玉事業所 〒367-0111 埼玉県児玉郡美里町古郡667-2
TEL.0495(76)3681 (代) FAX.0495(76)3688

営業所 東京・大阪・名古屋・福岡・広島・埼玉・横浜・千葉
仙台・仙北・仙南・神戸・小山・静岡

ホームページ <http://www.sun-ele.co.jp>

無料修理規定

取扱説明書等の注意事項に従い正しくご使用いただいた上で、保証期間内に故障した場合、お買上げの販売店に本商品と本書をご持参いただき、修理をご依頼ください。当社にて無料で修理対応をさせていただきます。

●次のような場合には保証期間中であっても有料修理となりますので、ご注意ください。

1. 本保証書にお客様名・お買い上げ年月日・お買い求めの販売店の記入のない場合。または、販売店の発行した、お買い上げ年月日・お買い求めの販売店を確認出来る証明書(領収書など)がない場合。
2. 本保証書の字句を書き換えられた場合。
3. 火災、爆発事故、落雷、地震、噴火、洪水、津波、その他の天災地災、公害、ガス害、塩害、異常電圧等または戦争や暴動などの破壊行為が故障の原因である場合。
4. 不慮の事故、使用上の誤りが原因である場合。
5. 色あせなどの経年劣化や使用に伴う外観上の損傷。
6. 当社以外での修理又は改造による故障が生じた場合。また、その形跡や商品筐体を開けた形跡がある場合。
7. 他の機器などにより故障が誘発された場合。
8. 用途以外(例えば車庫、船舶への搭載など)への使用で故障が生じた場合。
9. 設置工事、施工の不備によって故障が生じた場合。

※本書は日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)